

序 言

日本南極地域観測隊のおさめた成果を検討し、この事業を推進するために、日本学術会議南極特別委員会及び関係学協会の共催によって、南極シンポジウムが、1960年5月30日から6月3日までの間、東京国立科学博物館講堂で行なわれた。この趣旨に賛同され、御協力をいただいた学協会は、海洋気象学会・地震学会・電気通信学会・東京地学協会・日本海洋学会・日本機械学会・日本気象学会・日本建築学会・日本生態学会・日本雪氷学会・日本測地学会・日本地球電磁気学会・日本地質学会・日本地理学会・日本動物学会・地球化学研究会の16学協会である。

このシンポジウムでは、地学・気象・海洋・生物・超高層物理・設営科学技術の6部門に分れて、111の論文が発表された。この中20の論文は、南極に関する各研究分野の知識の現状についての総合報告である。これらは「学術月報」第13巻第4号(1960年7月)に和文で収録されている。その他の論文の殆んど大部分は本号に掲載されている。本号に掲載されなかったものは、近く「南極資料」又は他の出版物に印刷発表される予定である。また、既に「南極資料」又はその他の出版物に発表済の論文も、このシンポジウムで読まれたが、これらについては、本号にその要旨と発表誌名とを収録した。

南極シンポジウム プログラム

5月30日

開会の辞

南極大陸と全地球の自然現象

地学部門

茅 誠 司

永 田 武

26 報告

5月31日

気象部門

海洋部門

11 報告

9 報告

6月1日

海洋部門

生物部門

5 報告

18 報告

6月2日

超高層物理部門

20 報告

6月3日

設営科学技術部門

閉会の辞

22 報告

和 達 清 夫